

## 北九州 P C B 廃棄物処理施設の受入及び処理状況について

平成 17 年 3 月 25 日現在

日本環境安全事業株式会社 北九州 P C B 廃棄物処理施設は、平成 16 年 12 月 10 日に特別管理産業廃棄物処分量の許可を受け、P C B 廃棄物処理の操業を開始していますので運転状況等をご報告致します。

## 1. P C B 廃棄物の受入状況について

	P C B 廃棄物の種類及び数量(台)			
	トランス		コンデンサ	廃 P C B 等
	大型 (車載型含む)	中・小型		
平成 16 年 12 月	0	2	8	0
平成 17 年 1 月	0	12	20	0
平成 17 年 2 月	1	9	14	0
平成 17 年 3 月	3	28	20	0
合 計	4	51	62	0
(参考) 試運転時の受入状況について				
平成 16 年 7 月～ 平成 16 年 12 月	5	15	138	12 (ドラム缶)

## 2. P C B 廃棄物の処理状況について

	処理台数(台)			
	トランス		コンデンサ	廃 P C B 等
	大型 (車載型含む)	中・小型		
平成 16 年 12 月	0	0	0	0
平成 17 年 1 月	0	0	8	0
平成 17 年 2 月	0	14	10	0
平成 17 年 3 月	1	9	24	0
合 計	1	23	42	0

(参考) P C B 処理量

	純 P C B 処理量 (kg)
平成 16 年 12 月	657
平成 17 年 1 月	720
平成 17 年 2 月	985
平成 17 年 3 月	2,451
合 計	4,813

(注)：上記数量には試運転時のトランス・コンデンサの P C B が含まれます。

### 3. 処理済み物の払出状況について

#### . 鉄（容器・鉄心）

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成17年 2月	3	3,704
平成17年 3月	2	3,400
合 計	5	7,104

(注)：平成16年12月及び平成17年1月については、払出実績なし。

#### . 銅

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成17年 2月	1	1,322
合 計	1	1,322

(注)：平成16年12月、平成17年1月及び3月については、払出実績なし。

#### . 処理済油

	払出回数(回)	払出量(kl)
平成17年 1月	1	14
平成17年 2月	1	14
平成17年 3月	5	65
合 計	7	93

(注)：平成16年12月については、払出実績なし。

#### . 処理済残渣（液処理固形物）

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成17年 1月	1	3,067
平成17年 2月	2	4,767
平成17年 3月	7	23,160
合 計	10	30,994

(注)：平成16年12月については、払出実績なし。

#### . 含浸物

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成17年 3月	2	3,747
合 計	2	3,747

(注)：平成16年12月、平成17年1月及び2月については、払出実績なし。

#### . 碍子

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成17年 2月	1	362
合 計	1	362

(注)：平成16年12月、平成17年1月及び3月については、払出実績なし。

## 4 . 主な課題とその対応について

### 1 ) 処理性能

#### ・ 処理対象物対応性

高粘度の KC500 入りコンデンサ油の処理については、受槽への加温設備の設置及び循環混合設備の設置を平成 16 年 11 月 21 日に完了。17 年 1 月には KC500 入りコンデンサを受入れ、安全、確実に無害化处理できることを確認した。

#### ・ 処理可能量

含浸物の二次洗浄においては、洗浄効果を向上させるべく「並列使用の二次洗浄(2 段)」を直列に使用して「二次洗浄(前段) + 二次洗浄(後段)」に変更するとともに、洗浄液の利用の効率化を図るべく、洗浄液の流れを「回収溶剤貯槽 二次洗浄(後段) 二次洗浄(前段) 一次洗浄」に変更する。

併せて、洗浄バッチの増量化により、所期の処理能力の確保に努める。

洗浄のフロー変更の概要を図 - 1 - 1 (p. 4) に、また流を変えたことによる洗浄液の有効利用の概要を図 - 1 - 2 (p. 4) に示す。

車載型トランスについては洗浄ステーションを 1 台追加(既設と合わせ計 2 台)して、所期の処理能力を確保する。新設する洗浄ステーションの位置を図 - 2 (p. 5) に示す。

真空加熱分離装置については、含浸物を減容化する装置を導入し、1 バッチ当たりの処理重量の増加(40kg 60kg)を図る。

### 2 ) 作業環境性能

解体分別室、粗解体室のダイオキシン濃度測定結果については 表 - 1 (p. 6) に、またサンプリング箇所については図 3 (p. 7) 示すとおり、依然として 2.5 pg-TEQ/m<sup>3</sup> を安定してクリアーするには至っていない。

これらの改善対策として、PCB 蒸散量の低減を図るため、一次洗浄後バスケット保管温度を降下させる等の工事を予定しており、対策実施後の作業環境の改善効果を確認する。

管理区域における保護具については、今後、作業性(血圧、体温、脈拍等)との関連を継続調査し、作業負荷の観点から適正な保護具の検討を行う。

### 3 ) 改善対策工事工程

これらの改善対策を実施するに当たっての工事工程を表 - 2 (p. 8) に示す。

以 上

図 - 1 - 1 二次洗浄フローの変更

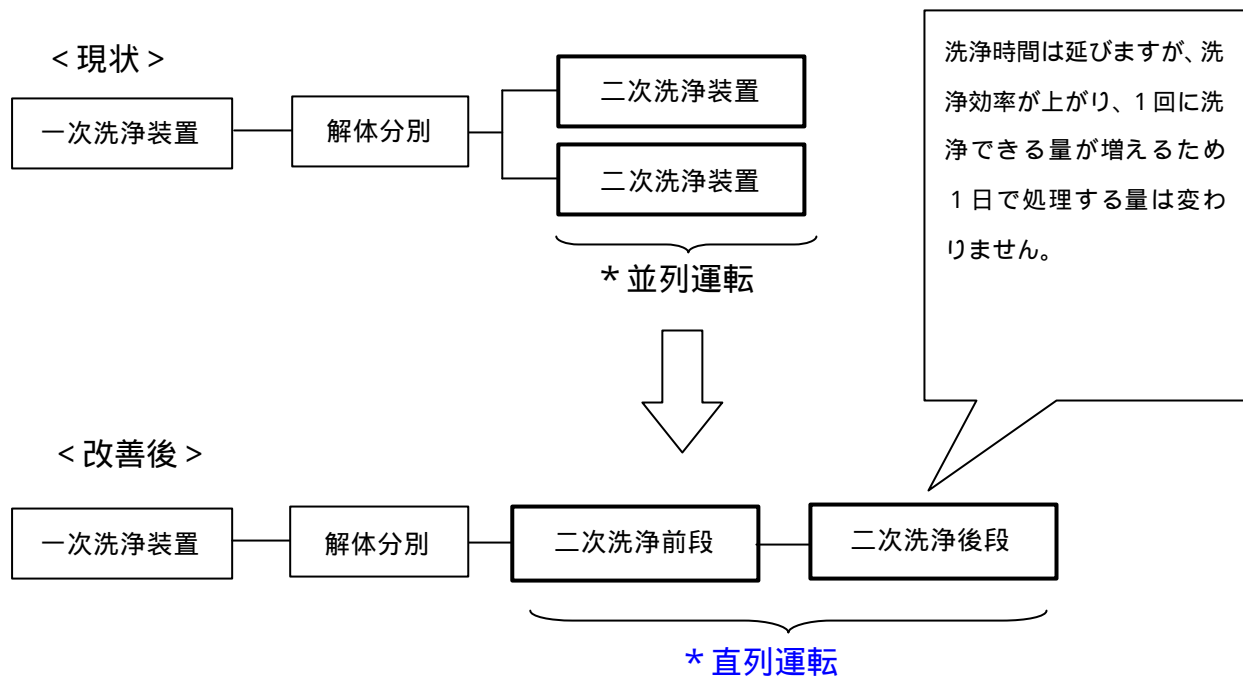


図 - 1 - 2 洗浄液の有効利用

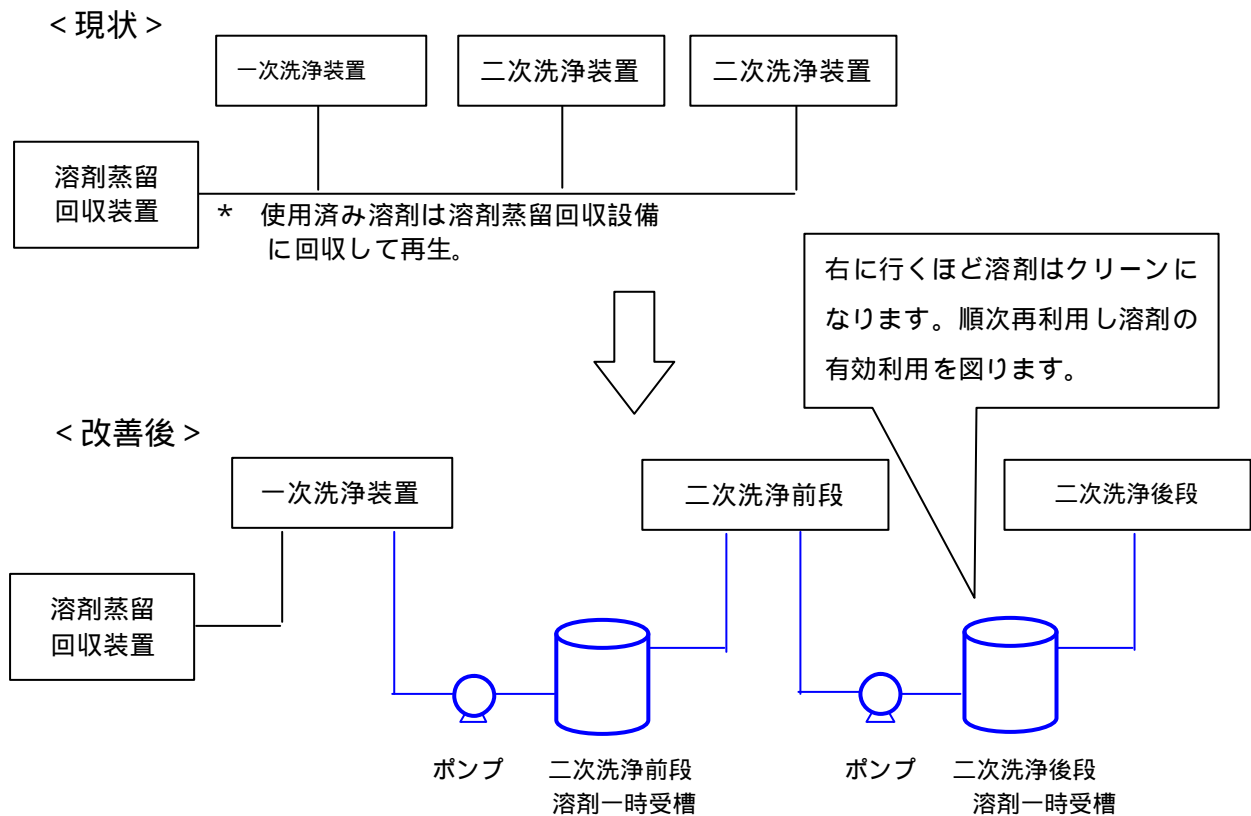


図 - 2 車載型トランス洗浄ステーションの設置位置

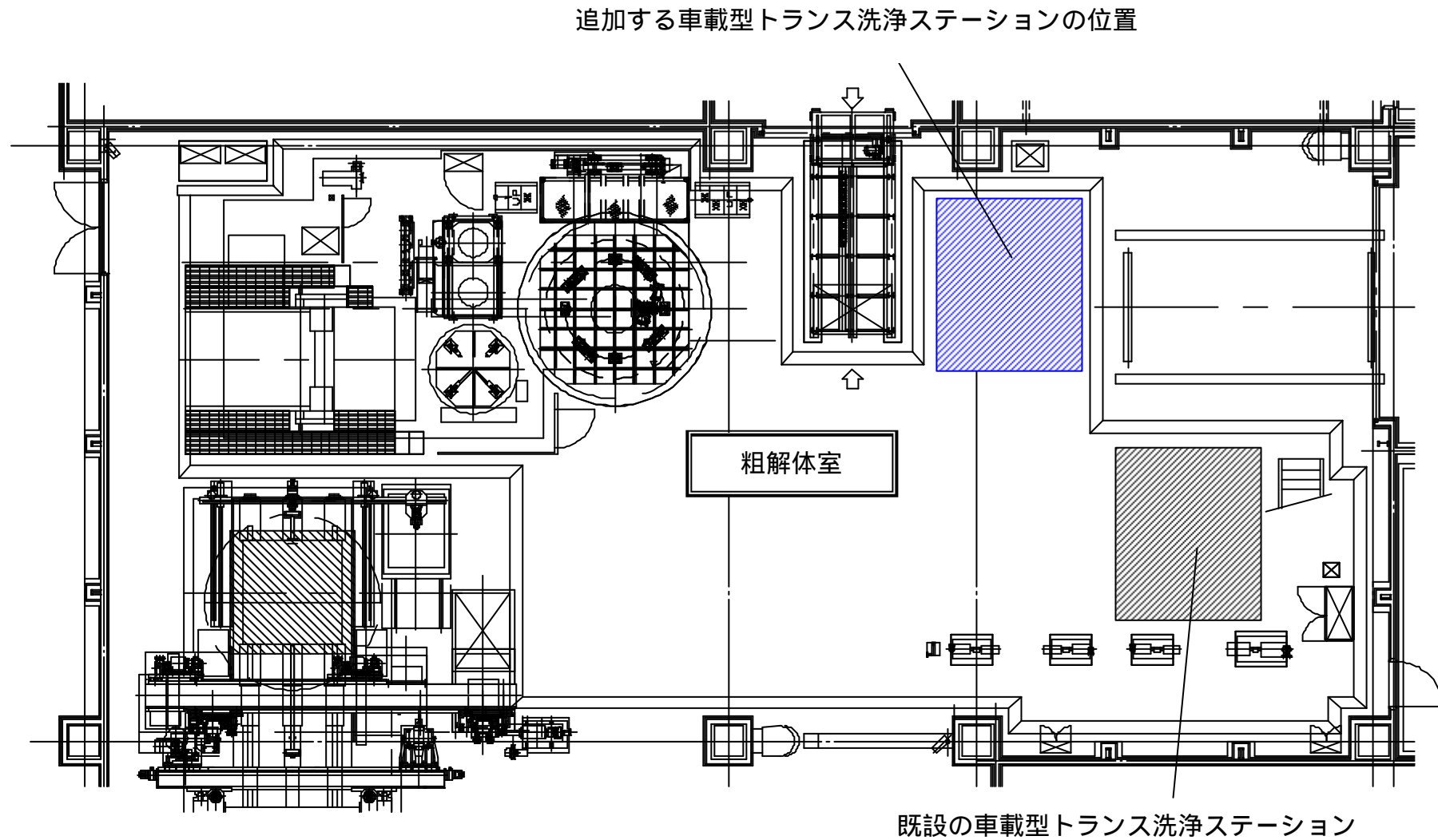


表 - 1 作業環境濃度測定データ

1. 解体分別室

採取日 測定項目 測定場所		平成17年1月27日		平成17年1月29日	
		PCB	ダイオキシン類	PCB	ダイオキシン類
		mg/m <sup>3</sup>	pg-TEQ/m <sup>3</sup>	mg/m <sup>3</sup>	pg-TEQ/m <sup>3</sup>
解体分別室	K-1	0.0010	—	0.0008	—
	K-2	—	—	—	—
	K-3	—	—	—	—
	K-4	—	-	—	—
	K-5	—	-	—	-

解体分別室：特化則（特定化学物質等障害予防規則）に該当しないが、自主的な作業環境測定の対象としている作業場

2. 粗解体室

採取日 測定項目 測定場所		12月17日		平成17年1月17日		平成17年1月27日	
		PCB	ダイオキシン類	PCB	ダイオキシン類	PCB	ダイオキシン類
		mg/m <sup>3</sup>	pg-TEQ/m <sup>3</sup>	mg/m <sup>3</sup>	pg-TEQ/m <sup>3</sup>	mg/m <sup>3</sup>	pg-TEQ/m <sup>3</sup>
粗解体室	A-1	0.0006	3.4	0.0008	1.6	0.0013	—
	A-2	0.0008	—	0.0004	—	0.0009	—
	A-3	0.0007	3.9	0.0007	3.2	—	—
	A-4	0.0005	—	0.0007	—	0.0002	—
	A-5	—	—	—	—	0.0006	—
	A-6	—	—	—	—	—	—
	A-7	—	—	—	—	—	—
	A-8	—	—	—	—	—	—
	A-9	—	—	—	—	—	—
	B	—	—	—	—	—	—

粗解体室：特化則に該当するため、PCBの作業環境濃度を年2回以上測定することが求められている作業場



表 - 2 改善対策工事工程表(予定)

